

回答・元玉川大学教職サポートルーム客員教授 峯岸 誠

第6回 学びを授業に生かそう



全国大会やブロック大会などですばらしい授業を拝見しました。その感動や学びを自分の授業にどのように反映させたらよいのでしょうか？

(1) はじめに

A 前号で、平素から授業に反映させる研究姿勢を示すことや職場や地域、地区の研究会を通して情報を発信する必要性などを述べました。

大会などで公開される授業は、基本構想からはじまり教材や教具、発問、板書にいたるまで衆知を集めてつくられています。会場で「すばらしい！でも、毎日の授業では難しい。」という発言を耳にすることがあります。そうでしょうか？

(2) 大会などで得られるものは何か？

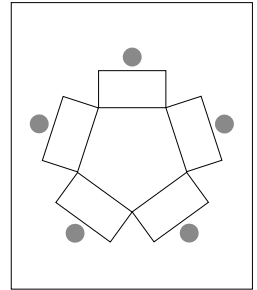
前々号で、授業観察の視点について述べました。指導技術の工夫などが、自己の授業に反映させやすいことがらでしょう。

板書の活用で、このような場面がありました。授業の冒頭で本時の目標を口頭で示し、黒板の左上部に板書しました。さらに、授業者は生徒にいっせいに音読させました。目標の徹底をはかるための工夫です。すぐに取り入れることができますね。

最近ではICT機器の活用がみられます。ICT機器の活用は、整備の状況や得手不得手などあり、いちがいには論じられません。しかし、ICT機器を導入することで生徒の興味や関心は高まります。できそうだな、おもしろそうだなと思ったら挑戦してみましよう。誰でも初めは素人です。失敗はつきものです。

私自身の経験でも挑戦し、失敗している私の姿に生徒は共感を覚え、魅力を感じたようです。

また、学習形態として少人数のグループでの活動が増えています。そこでは、座席配置は大きな課題です。偶数であれば対面で良いのですが、奇数の場合はどうしますか。右図のように円形に机を配置することで対面以上の効果が出ます。また、討論や話し合いの場面では、□や△に机を配置する事例もあります。話し合いではたがいの顔を見ながら行うことが効果的だからです。



ここに示した3つの事項は明日の授業から取り入れることができますか？

(3) 授業への生かし方

それでは、これまでの研究大会での発表を用いた授業の構想を考えてみましょう。なお、使用教科書は帝国書院の平成27年3月検定済み教科書です。

1 地理的分野（全国中学校地理教育研究会 平成23年度全国研究大会）

1年生にとって第1部「世界のさまざまな地域」は、地球全体から見た日本への学習の導入と位置づけられています。したがって、学習内容への興味や関心をもたせることが大切となります。しかし、実際はなかなか生徒の興味や関心を引けないというなやみを聞きます。生徒が世界の地理に興味や関心をもてない背景として体験的な学習が困難ということが考えられます。

そこで、例えば、第3章「世界の諸地域」の5節「南アメリカ州」の「4 ブラジルにみる環境問題」を扱うときにICT機器を用いましょう。「グーグルアース」という無料ソフトを用いると地球を俯瞰できます。

まず、学校の校舎からスタートし、地球を回転させ、南アメリカ大陸からアマゾン川を俯瞰します。次に教科書p.97「③アマゾン川流域の開発地域」に該当する部分をとらえ、資料と比較させましょう。さらに、教科書p.96「②アマゾン川流域で拡大する熱帯林の伐採」の「フィッシュボーン」をとらえ、実感させましょう。地球の反対側という距離感が一気に縮まると思います。勇気をもってICT機器に挑戦してみましょ。

2 歴史的分野 (全国中学校社会科教育研究大会 平成23年度東京大会)

学習指導要領は、「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる」としています。その時代を大観し表現させるためには、その時代の人々の気持ちになって考えさせる必要があります。また、時代の特色を考えさせるためには各時代の学習のはじめにその時代の特色を表現させる方法を示すことが大切です。

そこで、例えば、近世の学習のまとめとして「近世を支えたのは武士か、それとも町人・農民か」という主題で討論をさせてみましょう。そのために、教科書p.96～97の「2 秀吉が導いた近世社会」では刀狩や太閤検地を、教科書p.116～117の「1 身分制社会での暮らし」では身分制度のもとでの生活についてつねに、武士の立場と農民の立場から考えさせる工夫が必要です。具体的には、おのおの立場からの考察結果をノートなどにまとめさせておくことです。それらを活用して、個人で考えさせ、次に両者の考えを混ぜたグループで意見交換させます。さらに、それぞれの立場ごとのグループに分かれ、討論を行わせます。司会は教師が行い、その後、再度個人で考え、結論を出させます。この論題の場合「両者が支えた」という結論も認めましょ。

3 公民的分野 (全国中学校社会科教育研究大会 平成21年度宮崎大会ほか)

公民的分野の構造は、はじめに少子高齢化や情報化など現代社会の特徴を学ばせます。ついで、その現代社会をとらえる見方や考え方を学ばせます。その枠組みが「対立」と「合意」、「効率」と「公正」です。その考え方をを用いて、経済、政治、国際社会の諸事象の理解を深めさせるという構造です。

しかし、実際には事象の解説に終始し、考察させるにはいたらない場面がみられます。考察の方法としては話し合いが適しています。

例えば、財政では教科書p.150～151の「2 国の支出と収入」を扱うさいに、「租税負担の公平性」を課題とします。そこでは国債や消費税、租税制度としての累進課税を取りあげ、少子高齢社会に対応した福祉政策のあり方をグループで話し合いをさせましょ。累進課税と消費税では、「効率」と「公正」、福祉政策では、「対立」と「合意」の考えを用いて話し合わせましょ。そして、発表方法を工夫してみましょ。

話し合いの結果はB4判あるいはA3判のホワイトボードに書いて発表させます。裏面にマグネットを装着しておくで黒板に掲示できます。また、ホワイトボードの特性は、紙と異なり書いたり消したりが容易であり、話し合いの結果の発表用具としては効果的です。慣れてくるとまとめをふき出しにする光景も見られます。B4判あるいはA3判であれば学校の複写機でコピーがとれますので記録もとれます。ホワイトボードを使った発表はかなり普及しています。昨年11月の同岡山大会では三分野で使われていました。

このように研究大会で得たことを少しの勇気と工夫で授業に取り入れることで、生徒の活動に活気を生み出すことになります。